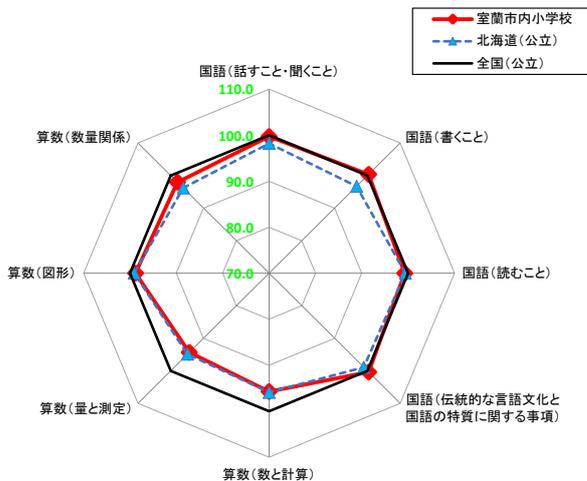


■室蘭市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:13校、児童数:537人)

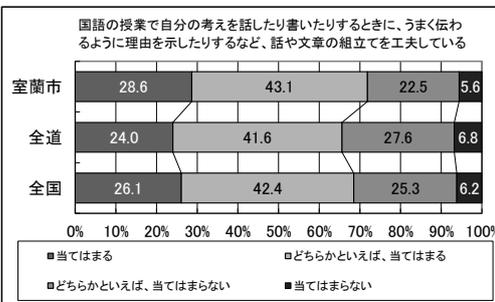
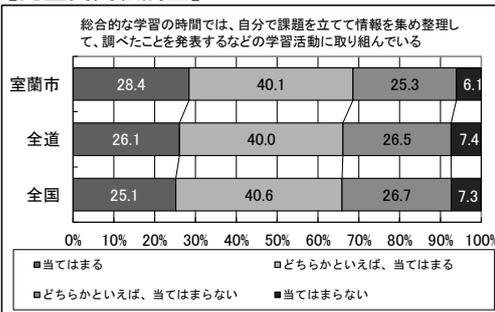
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

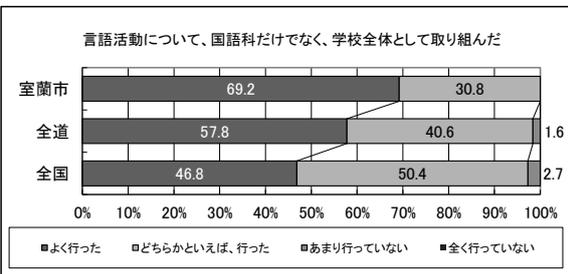
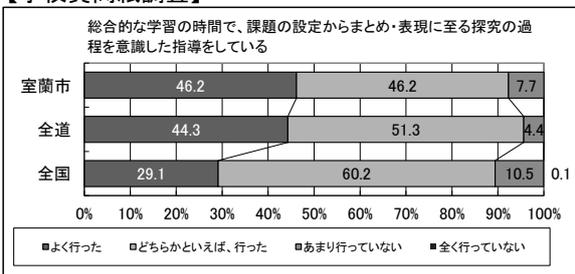
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|--|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、全国を上回っている。 ○ 算数では、「図形」において、全国に最も近づいている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたことにより、児童が、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組むようになったと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするときに、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、言語活動について、国語科だけでなく、学校全体として取り組んだことにより、児童が、国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするときに、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫するようになり、国語の「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回ったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「言語活動について、国語科だけでなく、学校全体として取り組んだ」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【室蘭市の学力向上策】

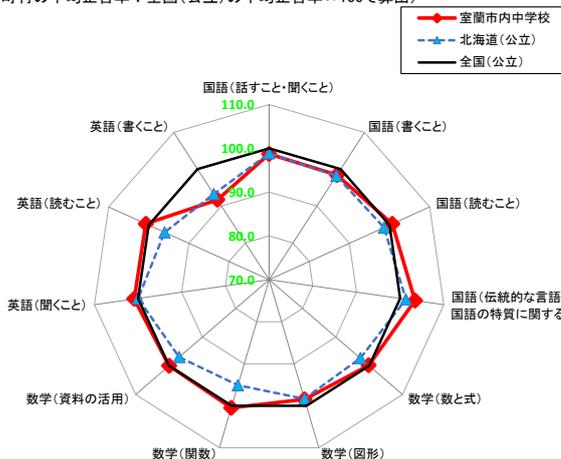
- ◎ 平成30年3月に策定した「第3期学力向上基本計画」の評価改善、市内小・中学校、教育委員会が一体となった確かな学力の育成の取組
- ◎ 教育委員会の取組としての市独自の学力検査の実施、研究指定校事業、ICT活用推進事業等の実施、学習支援員の配置
- ◎ 室蘭市教育研究所の取組としての授業づくりの改善・充実及びICT活用に係る研究推進や研修講座の開催、道徳・外国語活動の教科化へ向けた調査研究、研修講座の開催
- ◎ 各小・中学校の取組としての第3期学力向上基本計画と連動した学力向上プランの推進(授業改善、校内研修の活性化、学習サポート、小中連携の強化、家庭における学習習慣の確立、学習環境づくり、学習規律の徹底等)

■室蘭市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:7校、生徒数:574人)

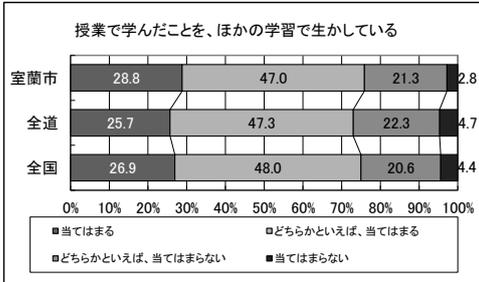
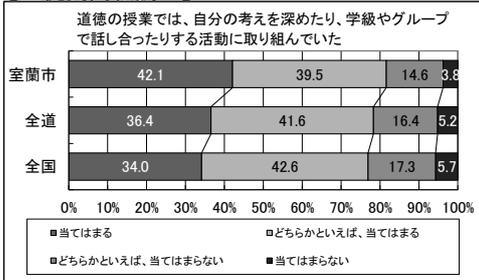
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

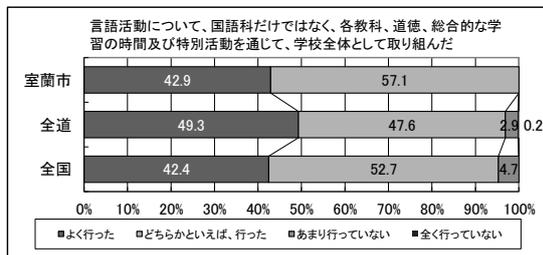
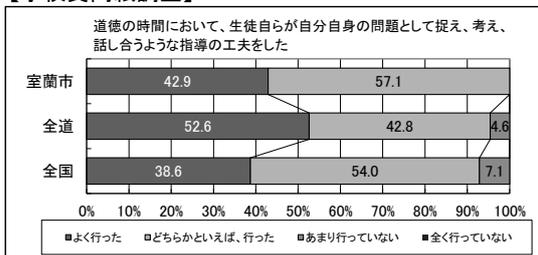
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|---|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国を上回り、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国及び全道を上回っている。 ○ 数学では、「関数」で全国を上回り、「資料の活用」で全国と同じである。 ○ 英語では、「聞くこと」「読むこと」で全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、道徳の時間において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたことにより、生徒が、道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組むようになったと考えられる。 ○ 学校が、言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、生徒が、授業で学んだことを、ほかの学習で生かすようになり、国語の「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や数学の「関数」「資料の活用」及び英語の「聞くこと」「読むこと」で全国を上回ったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 | |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「道徳の時間において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をよく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体としてよく取り組んだ」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

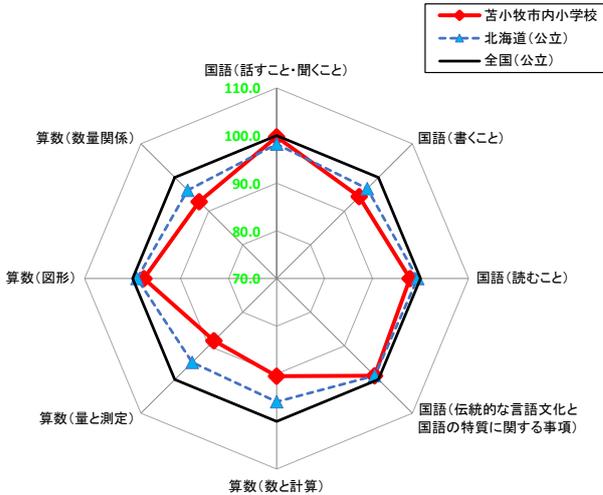
【室蘭市の学力向上策】

- ◎ 平成30年3月に策定した「第3期学力向上基本計画」の評価改善、市内小・中学校、教育委員会が一体となった確かな学力の育成の取組
- ◎ 教育委員会の取組としての市独自の学力検査の実施、研究指定校事業、ICT活用推進事業等の実施、学習支援員の配置
- ◎ 室蘭市教育研究所の取組としての授業づくりの改善・充実及びICT活用に係る研究推進、研修講座の開催(教科化へ向けた道徳・外国語活動に係る調査研究、研修講座の開催)
- ◎ 各小・中学校の取組としての第3期学力向上基本計画と連動した学力向上プランの推進(授業改善、校内研修の活性化、学習サポート、小中連携の強化、家庭における学習習慣の確立、学習環境づくり、学習規律の徹底等)

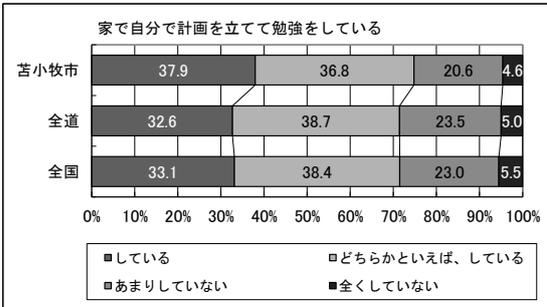
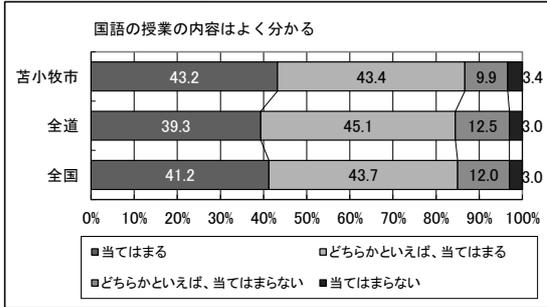
■ 苫小牧市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:24校、児童数:1431人)

【教科全体の状況】

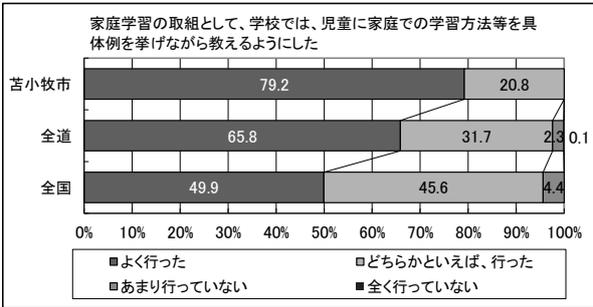
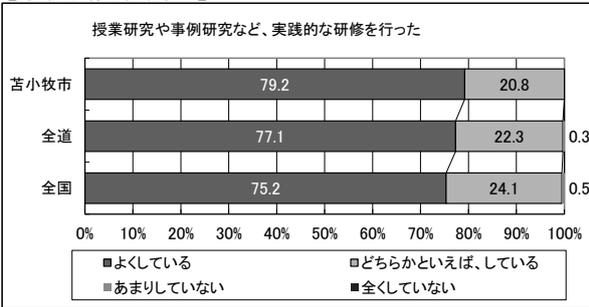
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「話すこと・聞くこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 算数では、「図形」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、児童が、国語の授業の内容がよく分かるようになり、領域によっては全国に最も近くなっていると考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、児童は、家で自分で計画を立てて勉強をするようになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

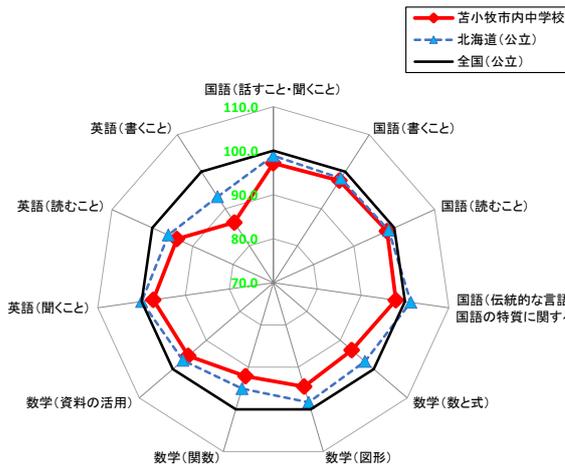
【苫小牧市の学力向上策】

- ◎ 苫小牧市学力向上推進資料(苫小牧っ子学力UP!ハンドブック・授業改善リーフ)の作成・全教員への配付
- ◎ 苫小牧市教育研究所授業改善研究委員会による教職員研修の充実
- ◎ 小・中学校間の継続した学習指導の連携
- ◎ 授業改善推進教師による授業改善に向けた取組の推進
- ◎ 家庭教育に関する情報紙【「ほ・む・す・く」(ほーむ&すーく)】の発行

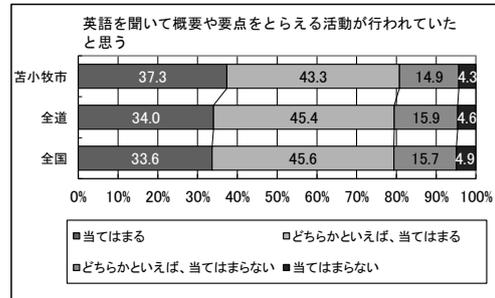
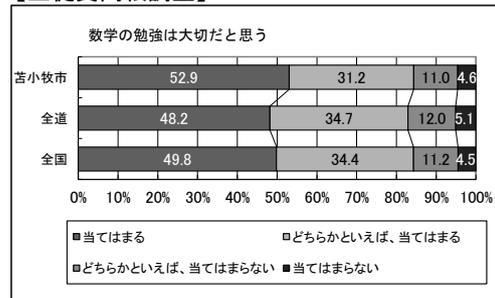
■ 苫小牧市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:15校、生徒数:1412人)

【教科全体の状況】

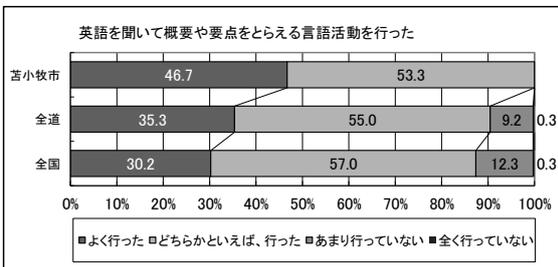
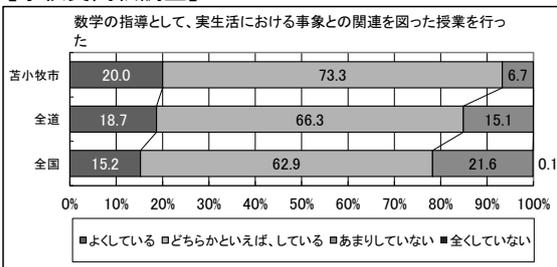
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 数学では、「資料の活用」で全国に最も近くなっている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒が、数学の勉強は大切だと思うようになったと考えられる。 ○ 学校が、英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動を行ったことが、生徒も意識されてきたため、英語の「聞くこと」で全国に最も近くなったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行われていると思う」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

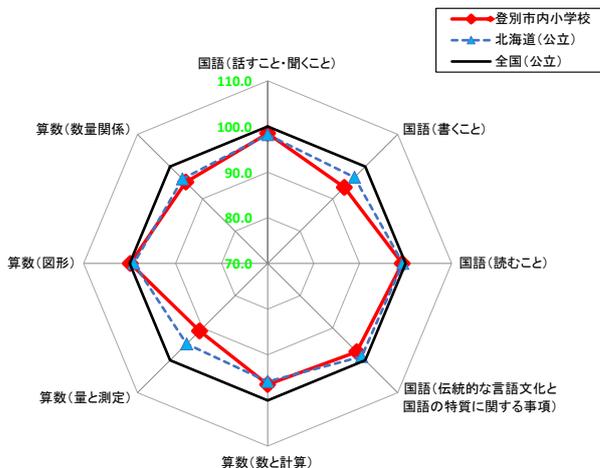
【苫小牧市の学力向上策】

- ◎ 苫小牧市学力向上推進資料(苫小牧っ子学力UP!ハンドブック・授業改善リーフ)の作成・全教員への配付
- ◎ 苫小牧市教育研究所授業改善研究委員会による教職員研修の充実
- ◎ 小・中学校間の継続した学習指導の連携
- ◎ 授業改善推進教師による授業改善に向けた取組の推進
- ◎ 家庭教育に関する情報紙【「ほ・む・す・く」(ほーむ&すくーる)】の発行

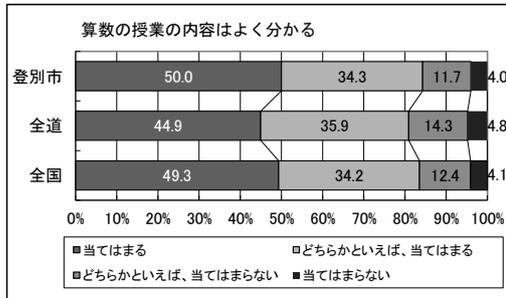
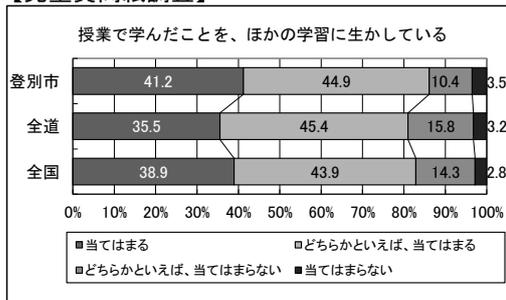
登別市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、児童数:376人)

【教科全体の状況】

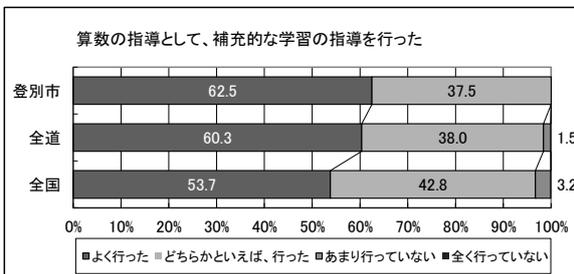
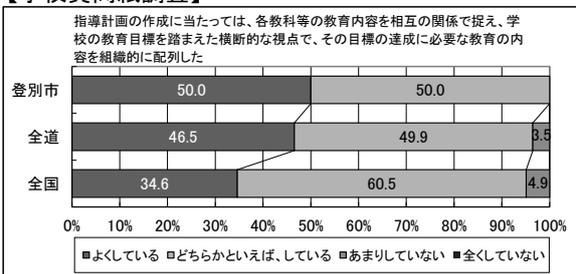
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 算数では、「図形」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、指導計画の作成に当たり、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列したことにより、教科等横断的な視点による授業改善が図られ、児童が授業で学んだことを、ほかの学習に生かすようになったと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、算数の指導として、補充的な学習の指導を行ったことにより、児童は算数の授業の内容がよく分かるようになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「算数の指導として、補充的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

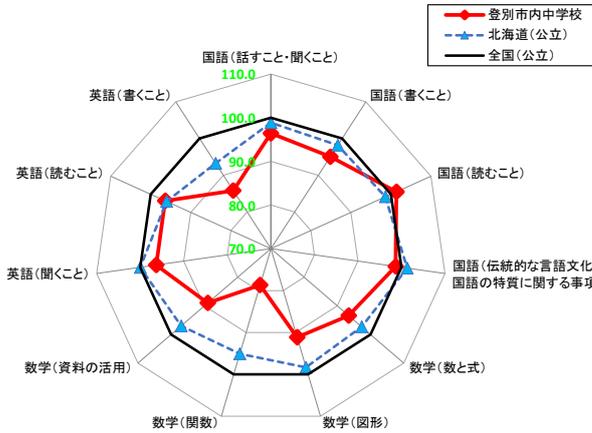
【登別市の学力向上策】

- ◎ 市独自に配置した学習指導員による登別版チャレンジドリルの作成や各学校の学力対策の支援
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの充実に向けた教材の作成や配付、地域住民による学習支援
- ◎ 学校図書館司書の配置や市立図書館と学校図書担当者の相互連携による読書環境の充実
- ◎ 退職教員等外部人材活用事業を活用した放課後学習会の実施
- ◎ 全校の代表者参加による教育課程課題検討委員会の開催、市教委からの授業改善に係る方向性の提示や各学校の全校体制による学力向上策の交流・協議による成果の還元
- ◎ 登別市教育実践研究奨励校の指定や、登別市教育研究会の活動の奨励などによる全市的な学力向上の取組の推進

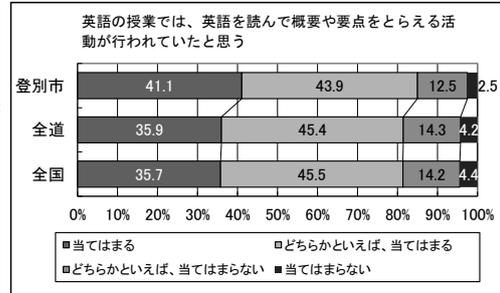
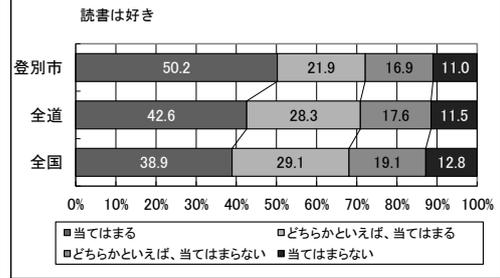
■登別市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:5校、生徒数:321人)

【教科全体の状況】

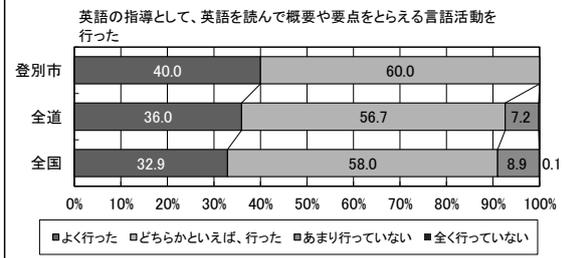
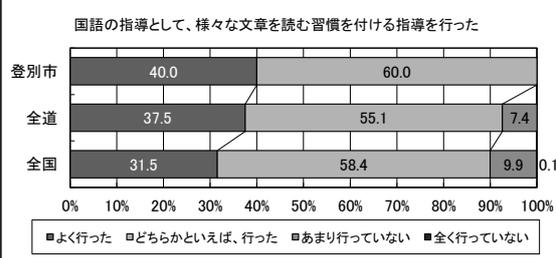
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国を上回っている。 ○ 数学では、「数と式」で全国に最も近くなっている。 ○ 英語では、「読むこと」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったことにより、生徒は、読書を好きになり、国語では、「読むこと」で全国を上回ったと考えられる。 ○ 学校が、英語を読んで概要や要点をとらえる言語活動をよく行ったことにより、生徒が、概要や要点をとらえ、英語では、「読むこと」で全国に最も近くなったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「読書は好き」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「英語の指導として、英語を読んで概要や要点をとらえる言語活動を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【登別市の学力向上策】

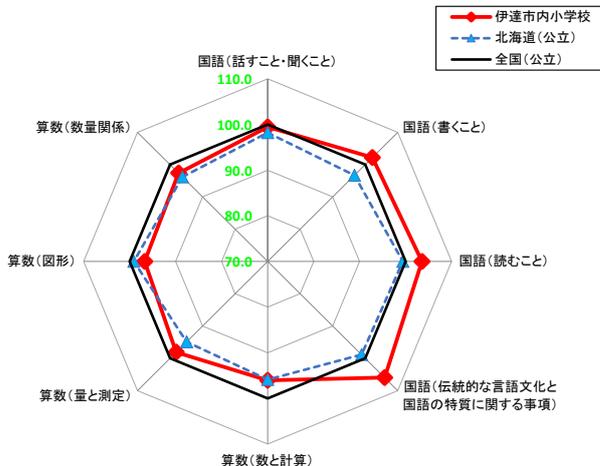
- ◎ 市独自に配置した学習指導員による登別版チャレンジドリルの作成や各学校の学力対策の支援
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの充実に向けた教材の作成や配付、地域住民による学習支援
- ◎ 学校図書館司書の配置や市立図書館と学校図書担当者の相互連携による読書環境の充実
- ◎ 退職教員等外部人材活用事業を活用した放課後学習会の実施
- ◎ 全校の代表者参加による教育課程課題検討委員会の開催、市教委からの授業改善に係る方向性の提示や各学校の全校体制による学力向上策の交流・協議による成果の還元
- ◎ 登別市教育実践研究奨励校の指定や、登別市教育研究会の活動の奨励などによる全市的な学力向上の取組の推進

■伊達市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:9校、児童数:262人)

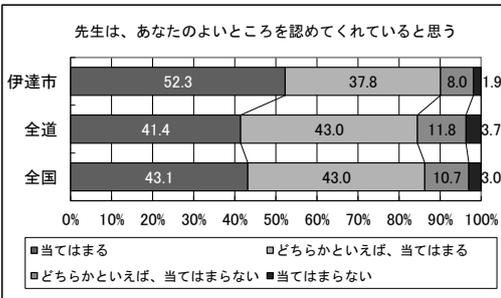
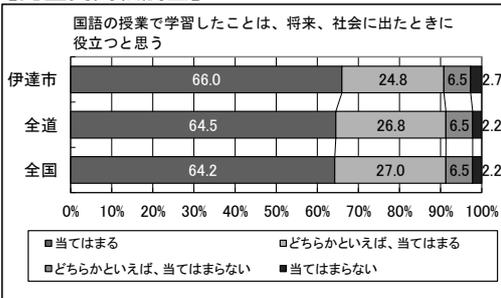
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

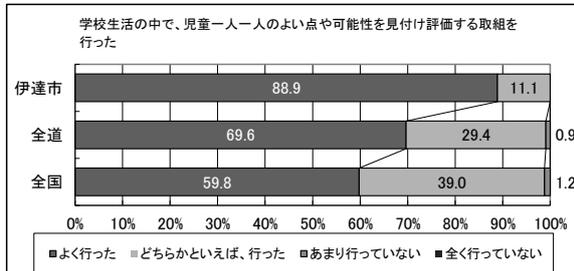
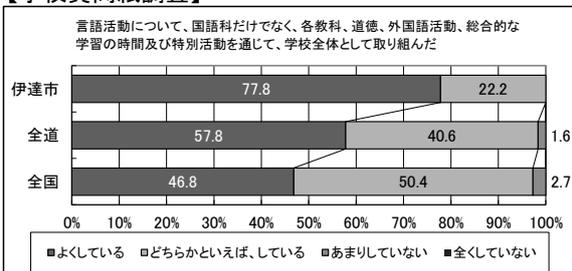
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|--|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語において、全国を上回っている。 ○ 国語では、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 算数では、「量と測定」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、児童が、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うようになり、国語において、全国を上回ったと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、児童が、先生は、自分のよいところを認めてくれていると思うようになり、自信をもって学習に取り組むようになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだ」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

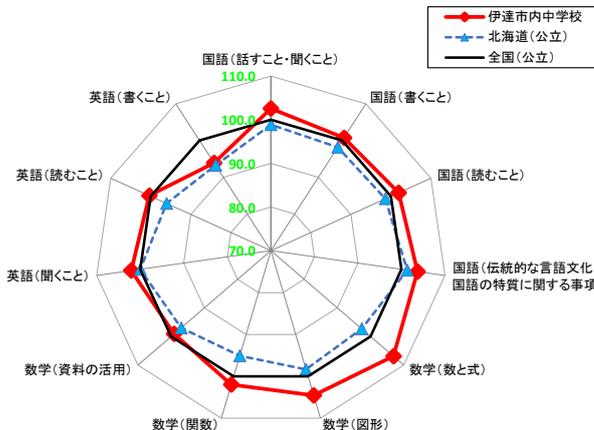
【伊達市の学力向上策】

- ◎ 市独自の学力テストの実施
- ◎ 学校ごとの学力・学習改善プランの策定
- ◎ 伊達市教育実践交流・研修会の実施
- ◎ 研究校指定による公開研究会の実施

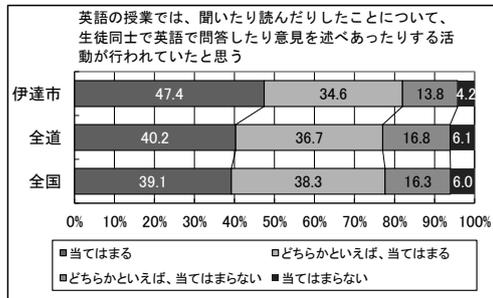
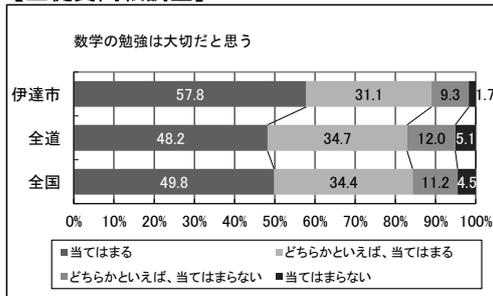
■伊達市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:3校、生徒数:289人)

【教科全体の状況】

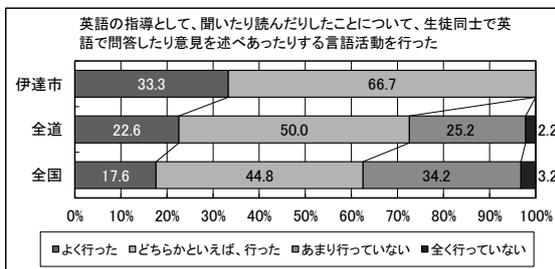
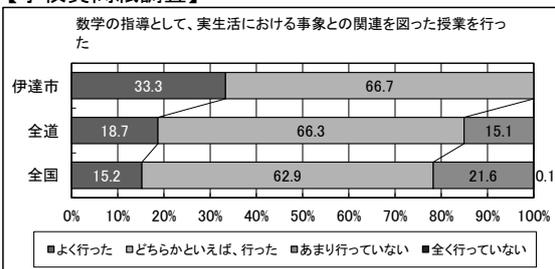
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語、数学において、全国を上回り、英語において、全道を上回っている。 ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 数学では、「数と式」「図形」「関数」で全国を上回っている。 ○ 英語では、「聞くこと」「読むこと」で全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒が、数学の勉強は大切だと思うようになり、数学において、全国を上回ったと考えられる。 ○ 学校が、英語の指導として、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする言語活動を行ったことが、生徒にも意識されてきたため、英語の「聞くこと」「読むこと」で全国を上回ったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で問答したり意見を述べあったりする活動が行われていたと思う」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「英語の指導として、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする言語活動を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

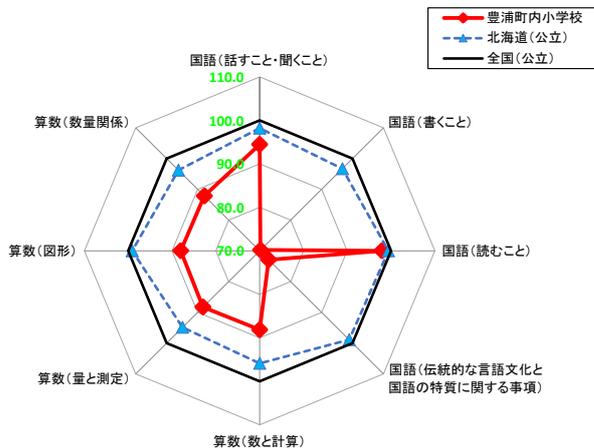
【伊達市の学力向上策】

- ◎ 市独自の学力テストの実施
- ◎ 学校ごとの学力・学習改善プランの策定
- ◎ 伊達市教育実践交流・研修会の実施
- ◎ 研究校指定による公開研究会の実施

豊浦町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、児童数:20人)

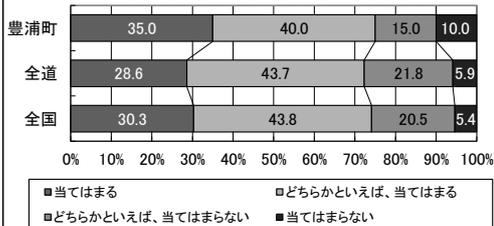
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

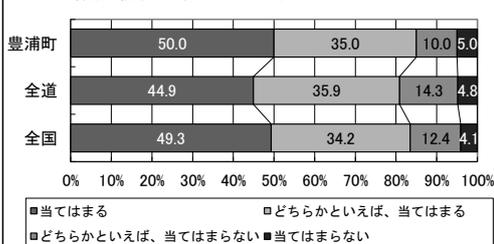


【児童質問紙調査】

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

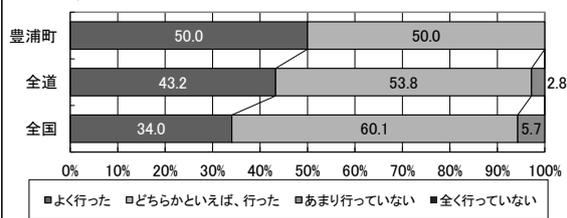


算数の授業の内容はよく分かる

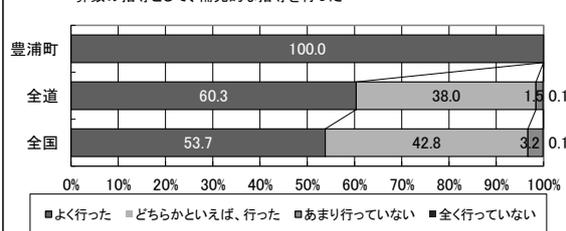


【学校質問紙調査】

国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った



算数の指導として、補充的な指導を行った



【分析】

| | | |
|-------|--|--|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 算数では、「量と測定」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったことにより、児童が、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているようになったと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、算数の指導として、補充的な学習の指導を行ったことにより、児童は、算数の授業の内容がよく分かるようになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「算数の指導として、補充的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【豊浦町の学力向上策】

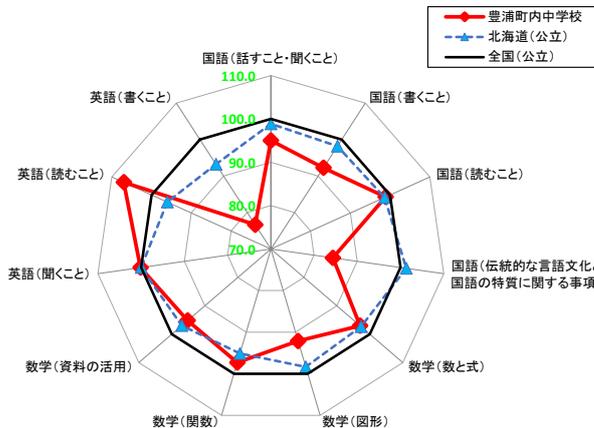
- ◎ 町独自の学習支援員、補助教員の配置
- ◎ 町独自の学習五原則に基づく学習規律の徹底
- ◎ 小中一貫教育の推進による確かな学力の育成と学習習慣の確立への取組の推進
- ◎ 学校運営協議会による学校と地域が目指す子ども像を共有した豊かな教育環境づくりの推進

■豊浦町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:21人)

【教科全体の状況】

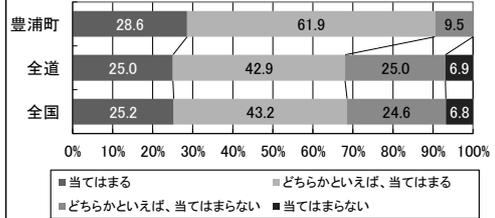
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

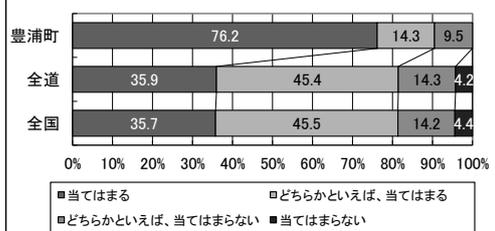


【生徒質問紙調査】

国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる

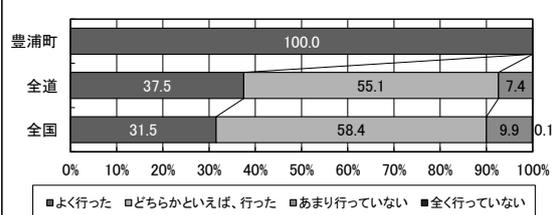


英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う

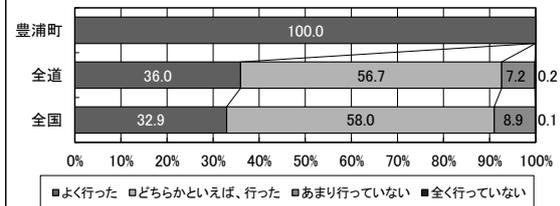


【学校質問紙調査】

国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った



英語の指導として、英語を読んで概要や要点をとらえる言語活動を行った



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 数学では、「関数」で全国に最も近くなっている。 ○ 英語では、「聞くこと」「読むこと」で全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業をよく行ったことにより、生徒が、国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読むようになり、国語の「読むこと」で全国に最も近くなったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、英語の指導として、英語を読んで概要や要点をとらえる言語活動をよく行ったことが、生徒も意識されてきたため、英語の「読むこと」で特に全国を大きく上回ったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業をよく行った。 ○ 英語の指導として、英語を読んで概要や要点をとらえる言語活動をよく行った。 | |

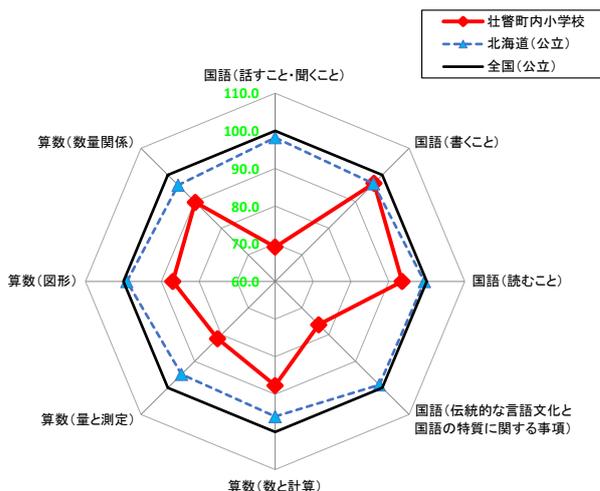
【豊浦町の学力向上策】

- ◎ 町独自の学習支援員、補助教員の配置
- ◎ 町独自の学習五原則に基づく学習規律の徹底
- ◎ 小中一貫教育の推進による確かな学力の育成と学習習慣の確立への取組の推進
- ◎ 学校運営協議会による学校と地域が目指す子ども像を共有した豊かな教育環境づくりの推進

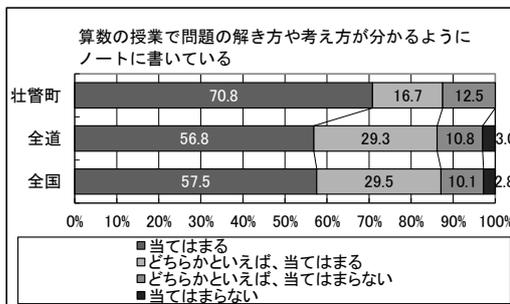
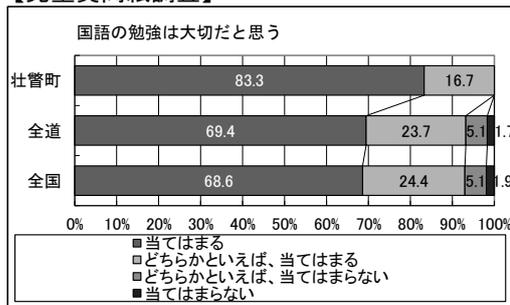
■ 壮瞥町内小学校の状況及び学力向上策 (学校数: 1校、児童数: 24人)

【教科全体の状況】

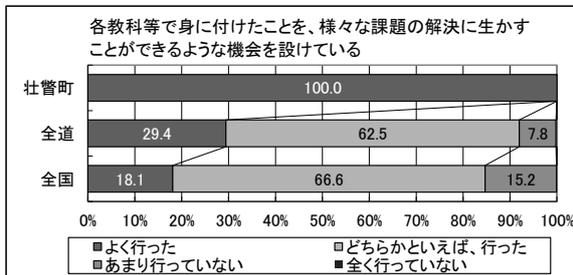
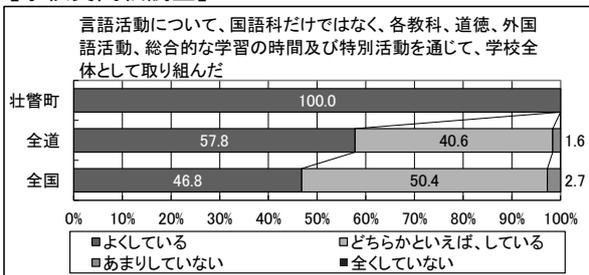
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|---|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」で全道を上回っている。 ○ 算数では、「数量関係」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強が大切であると思う児童の割合が多くなり、全道を上回る領域が見られるようになったと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、児童が、算数の授業で問題の解き方や、考え方が分かるようにノートを書くようになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会をよく設けたと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体としてよく取り組んだ」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【壮瞥町の学力向上策】

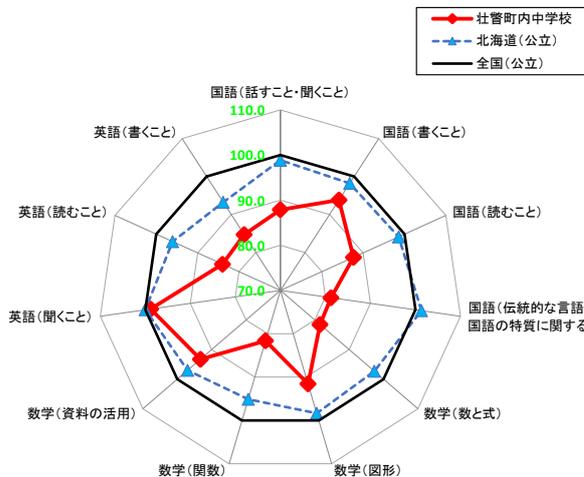
- ◎ 校内研修コーディネーターを活用した指導環境の充実と授業力向上に向けた取組の推進
- ◎ チャレンジテストの活用や長期休業中のサポート学習等による基礎学力の定着に向けた取組の継続
- ◎ 体験活動や調査活動の報告文や新聞の作成を通した書く力の育成
- ◎ 生活リズムチェックシート及び家庭学習の手引等を活用した基本的な生活習慣の確立、家庭学習の習慣化に向けた保護者の協力による取組の推進
- ◎ 指導工夫改善加配を活用したTTや習熟度別少数指導の実施、実物投影機等のICT機器の効果的な活用による個に応じたきめ細かな指導の継続
- ◎ そうぶつ型学校評価システムによる全小・中学校共通の目標に基づく教育活動の推進

■ 壮瞥町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:20人)

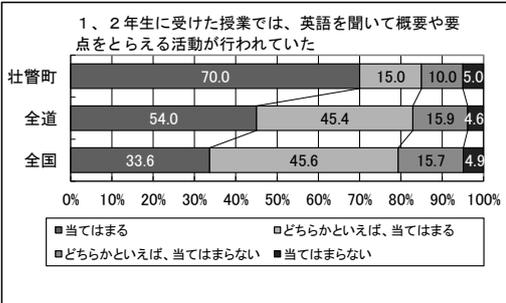
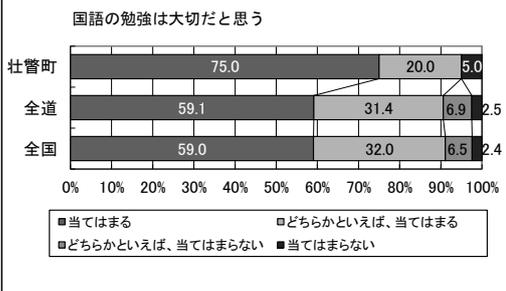
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

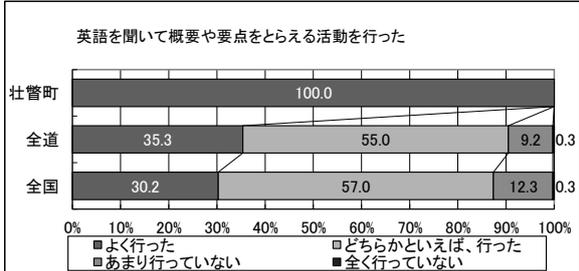
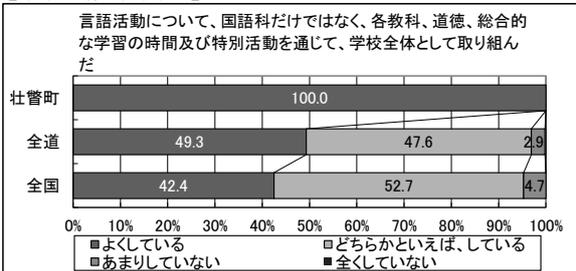
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|---|--|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」が他の領域より高くなっている。 ○ 数学では、「資料の活用」が他の領域より高くなっている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国及び全道とほぼ同様となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体としてよく取り組んだことにより、国語の勉強が大切であると思う生徒の割合が多くなり、国語で高い領域が見られるようになったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の勉強が大切である」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「1、2年生に受けた授業では、英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、前年度までに、英語を聞いて概要や要点をとらえる活動をよく行ったことが、生徒も意識されてきたため、英語の「書くこと」で全国及び全道とほぼ同じ領域が見られるようになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体としてよく取り組んだ。 ○ 英語を聞いて概要や要点をとらえる活動をよく行った。 | |

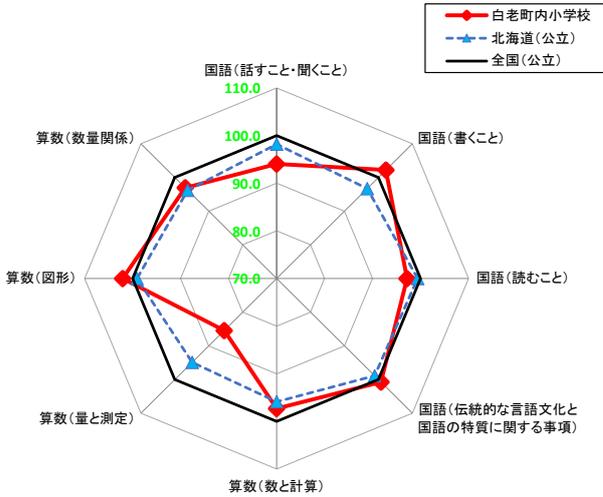
【壮瞥町の学力向上策】

- ◎ 校内研修コーディネーターを活用した指導環境の充実と授業力向上に向けた取組の推進
- ◎ チャレンジテストの活用や放課後学習会、長期休業中のサポート学習等による基礎学力の定着に向けた取組の継続
- ◎ あしあとファイル(個人日誌)及び家庭学習の手引等を活用した基本的な生活習慣の確立、家庭学習の習慣化に向けた保護者の協力による取組の推進
- ◎ TT指導や実物投影機等のICT機器の効果的な活用による個に応じたきめ細かな指導の継続
- ◎ そうべつ型学校評価システムによる全小・中学校共通の目標に基づく教育活動の推進

■白老町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:4校、児童数:76人)

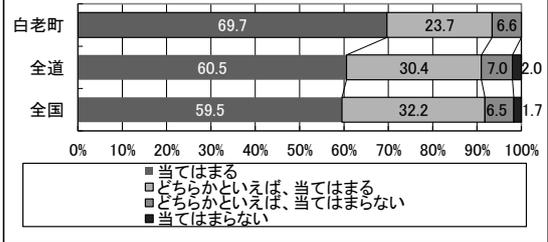
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

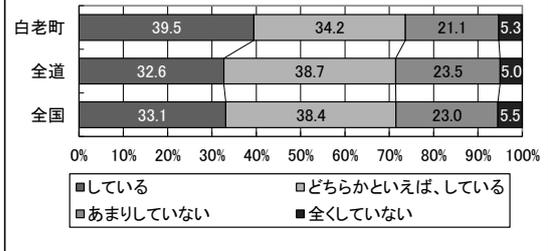


【児童質問紙調査】

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている

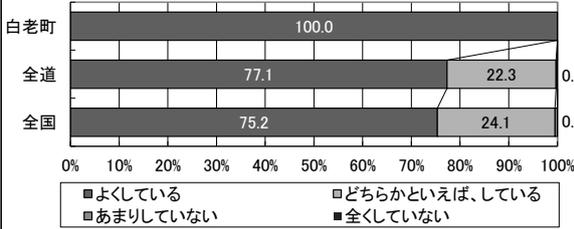


家で自分で計画を立てて勉強をしている

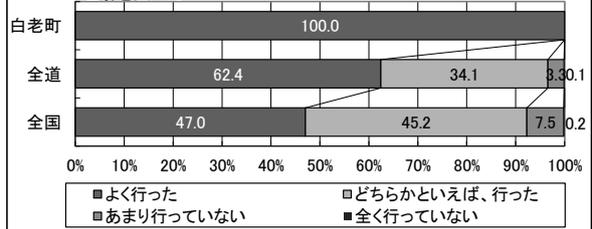


【学校質問紙調査】

授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている



家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った



【分析】

| 教科 | 分析内容 |
|-------|---|
| 国語 | ○ 国語では、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 |
| 算数 | ○ 算数では、「図形」で全国を上回っている。 |
| 児童質問紙 | ○ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 |
| 学校質問紙 | ○ 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 |
| 総合 | ○ 学校が、授業研究や事例研究など、実践的な研修を学校全体で組織的に行ったことにより、授業改善が図られ、児童が、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思うようになったと考えられる。 ○ 学校が、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図り、家庭に啓発をしたことにより、児童が、家庭において自分で計画を立てて勉強するようになり、国語や算数の一部の領域で全国を上回ったと考えられる。 |

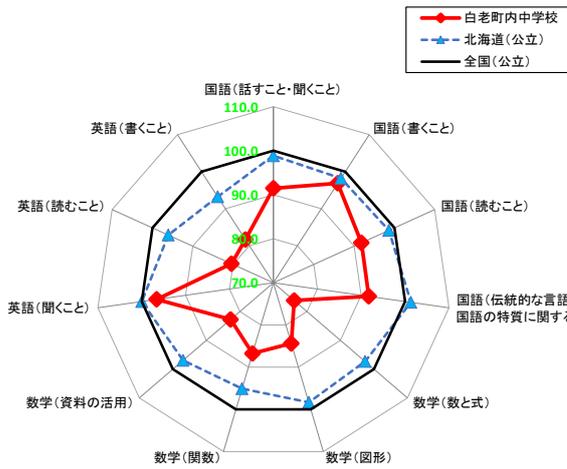
【白老町の学力向上策】

- ◎ 学力向上を目指す「白老町スタンダード」による共通実践を通じた「授業の充実」、「家庭学習の充実」、「学習環境の充実」
- ◎ 学力上位県(秋田県能代市)への教育視察訪問による授業改善の促進
- ◎ 「白老町アウトメディア123」を基軸とした町教委、学校、保護者、地域が連携した望ましい生活習慣の育成
- ◎ 小中一貫・小中連携による中学校区内での乗り入れ授業の実施や学習規律の接続等による学びの連続性の充実
- ◎ 小学校3、5年生を対象とした町費による日本漢字能力検定の悉皆実施

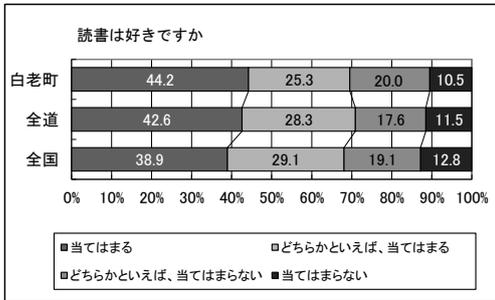
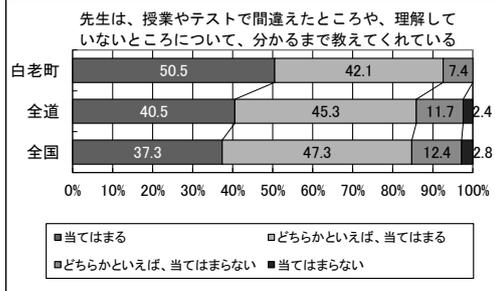
■白老町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:95人)

【教科全体の状況】

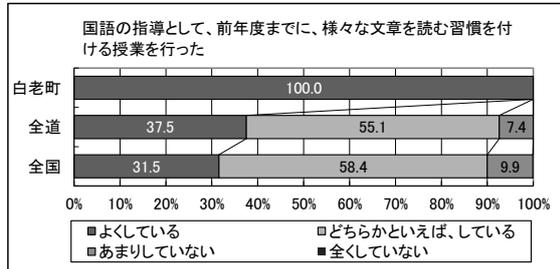
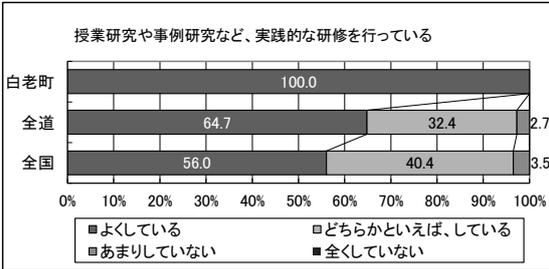
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|---|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 数学では、「関数」で全国に最も近くなっている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、生徒が、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うようになったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「読書は好き」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導として、前年度までに様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったことにより、生徒が、読書が好きになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「国語の指導として、前年度までに様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【白老町の学力向上策】

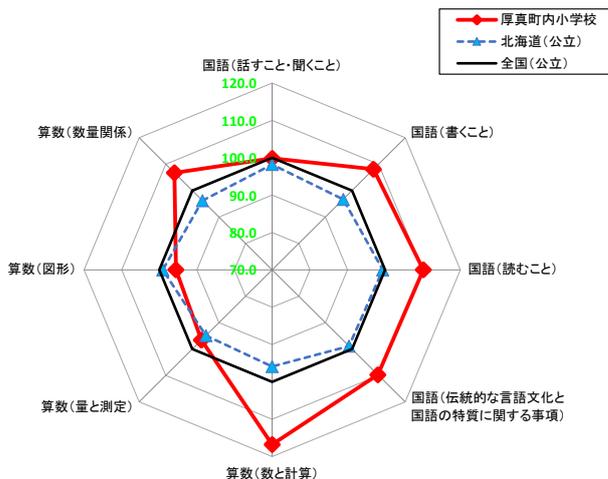
- ◎ 学力向上を目指す「白老町スタンダード」による共通実践を通した「授業の充実」、「家庭学習の充実」、「学習環境の充実」
- ◎ 学力上位県(秋田県能代市)への教育視察訪問による授業改善の促進
- ◎ 「白老町アウトメディア123」を基軸とした町教委、学校、保護者、地域が連携した望ましい生活習慣の育成
- ◎ 小中一貫・小中連携による中学校区での乗入れ授業の実施や、学習規律の接続等による学びの連続性の充実
- ◎ 中学校第3学年の英語検定、全学年の英語検定IBAの実施

■厚真町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、児童数:30人)

【教科全体の状況】

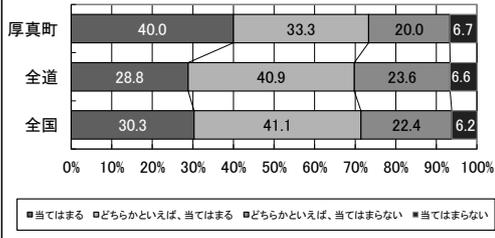
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

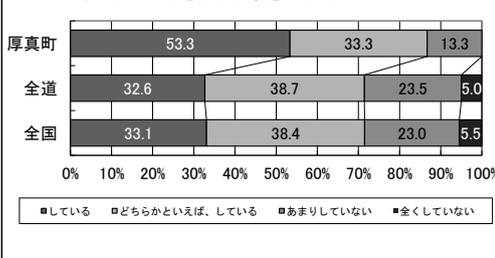


【児童質問紙調査】

国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる

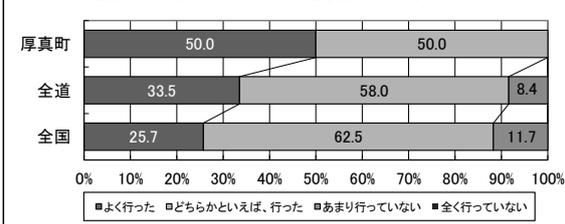


家で自分で計画を立てて勉強をしている

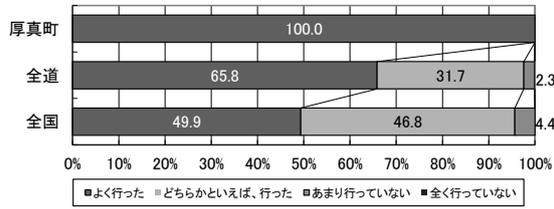


【学校質問紙調査】

国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った



家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科において、全国を上回っている。 ○ 国語では、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国を上回っている。 ○ 算数では、「数と計算」「数量関係」で全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったことにより、児童が、国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読むようになり、国語の「読むこと」で特に全国を大きく上回ってきたと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、家庭学習の取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、児童が、家で自分で計画を立てて勉強するようになり、学習の理解が深まり、学力の向上が図られてきたと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

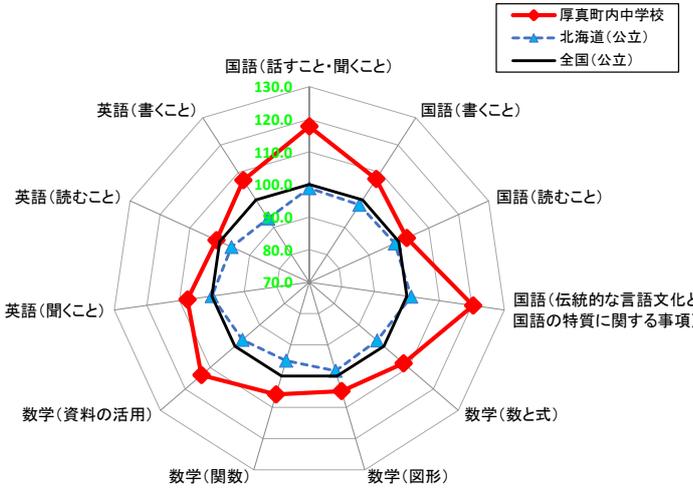
【厚真町の学力向上策】

- ◎ 学力向上推進委員会を通した学力向上策の交流と地域連携の推進
- ◎ 標準学力検査を通した課題の把握と学び直しの支援(Web支援システムの活用)
- ◎ 少人数、T・T指導の支援(加配:1校、町費:1校)の実施
- ◎ 長期休業中に各学校が実施する学習会におけるスクールバス活用などの支援
- ◎ 全学年を対象とした学習アンケートの実施、児童生徒の学習上の課題の把握と各学校間の情報共有

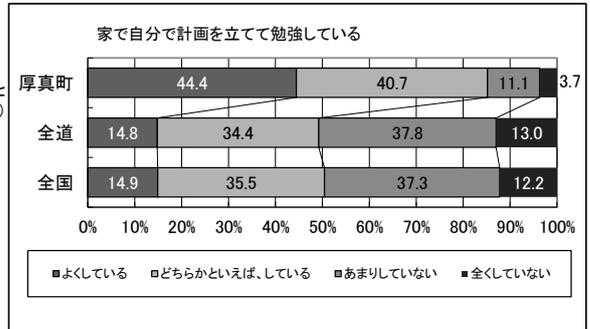
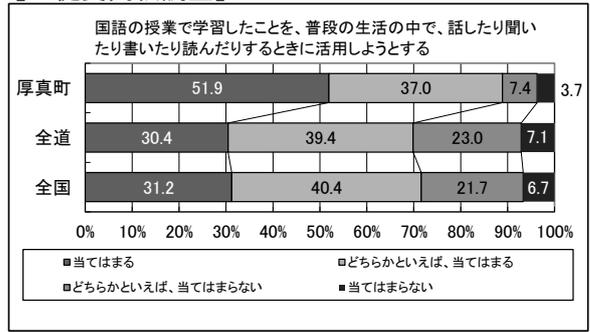
■厚真町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:27人)

【教科全体の状況】

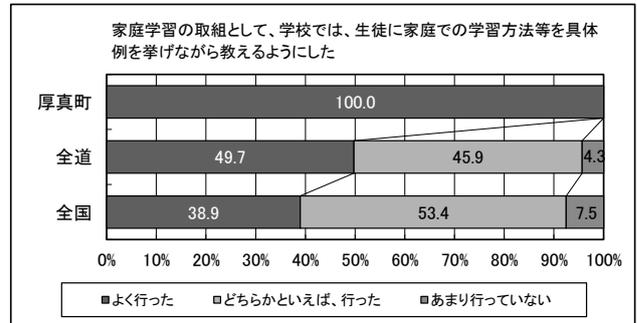
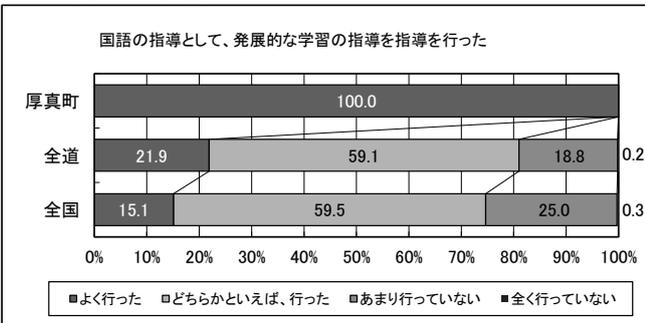
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|---|--|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科において、全国を上回っている。 ○ 全ての教科の、全ての領域で全国及び全道を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導として、補充的な指導はもとより、発展的な学習の指導を行ったことにより、生徒が、国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとするようになり、成果が上がってきたと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとする」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、家庭学習の取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、生徒が、家で自分で計画を立てて勉強するようになり全ての教科において、学力が定着してきたと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を指導を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

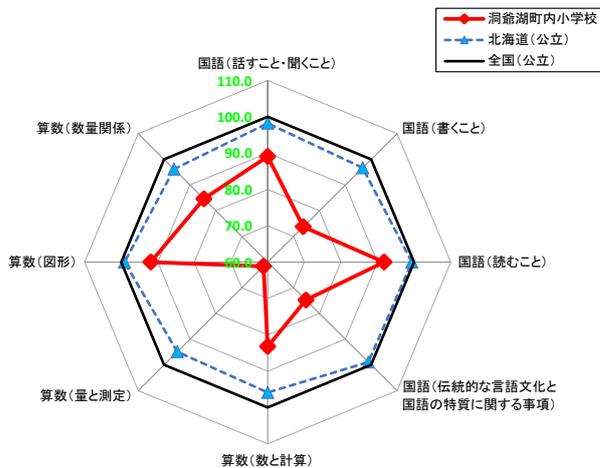
【厚真町の学力向上策】

- ◎ 学力向上推進委員会を通した学力向上策の交流と地域連携の推進
- ◎ 標準学力検査を通した課題の把握と学び直しの支援(Web支援システムの活用)
- ◎ 長期休業中の学習支援(学生ボランティアの派遣:1校)の実施
- ◎ 長期休業中に各学校が実施する学習会におけるスクールバス活用などの支援
- ◎ 全学年を対象とした学習アンケートの実施、児童生徒の学習上の課題の把握と各学校間の情報共有

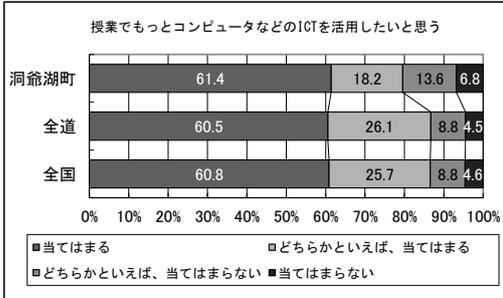
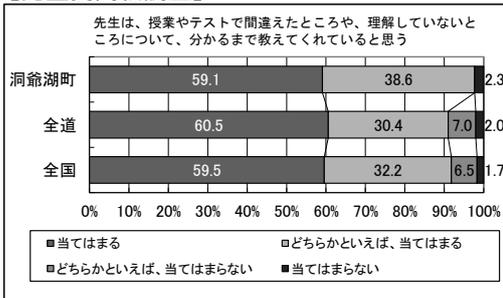
洞爺湖町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:3校、児童数:44人)

【教科全体の状況】

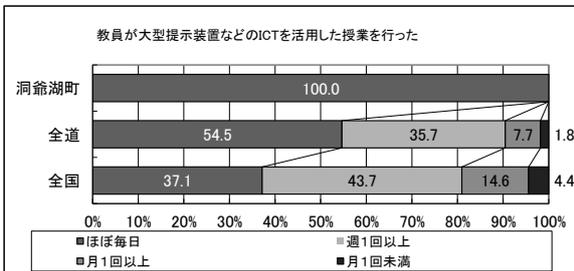
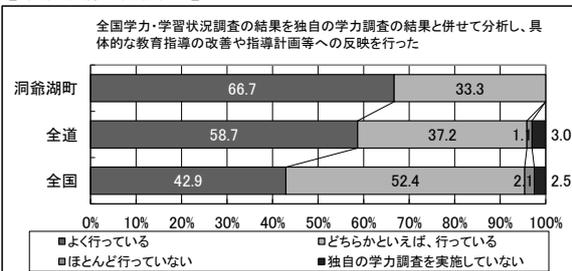
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|--|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 算数では、「図形」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、全国学力・学習状況調査の結果を独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったことにより、児童が、先生から授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれるようになり、全国に近くなった領域が見られるようになったと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思う」と回答した児童の割合が、全国とほぼ同様になっている。 ○ 「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、大型提示装置などのICTを活用した授業をほぼ毎日行ったことにより、児童が、授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思うようになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「全国学力・学習状況調査の結果を独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「教員が大型提示装置などのICTを活用した授業をほぼ毎日行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

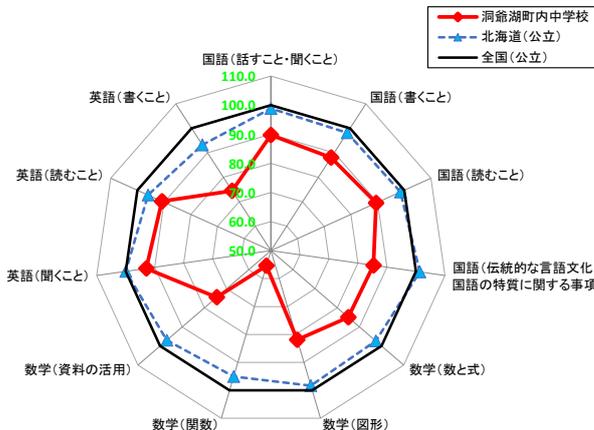
【洞爺湖町の学力向上策】

- ◎ 洞爺湖町スタンダード10研修委員会で策定した「洞爺湖町自立的学びのためのスタンダード10」による全町的な学力向上の取組の実施
- ◎ 長期休業中や放課後の補充学習と町の放課後学習支援(地域未来塾)の実施
- ◎ 指定事業等を活用した教職員の資質向上・授業改善のための講師招聘講演会の開催
- ◎ 町独自の学力検査の実施
- ◎ 支援員の手厚い配置
- ◎ 平日、土日の家庭学習強化の取組の実施(PTAへの呼びかけ文書の作成など)

■洞爺湖町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:64人)

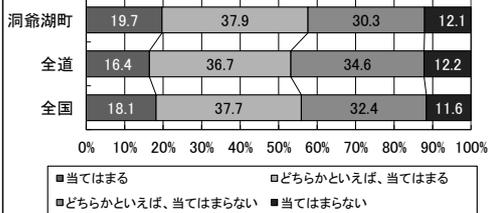
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

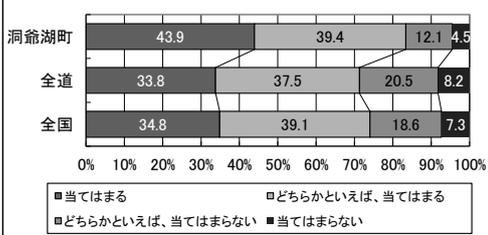


【生徒質問紙調査】

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

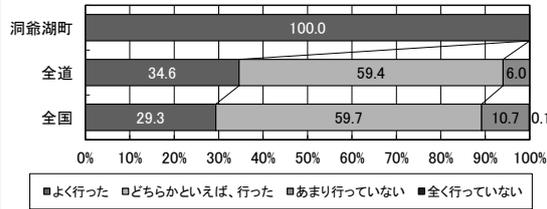


数学の授業の内容はよく分かる

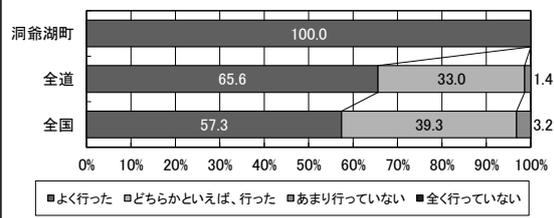


【学校質問紙調査】

国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った



数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行った



【分析】

| | | |
|-------|---|--|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「話すこと・聞くこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 数学では、「数と式」で全国に最も近くなっている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったことにより、生徒が、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表するようになり、国語の「話すこと・聞くこと」で全国に最も近くなったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行ったことにより、生徒は、数学の授業の内容がよく分かるようになり、数学の「数と式」で全国に最も近くなったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

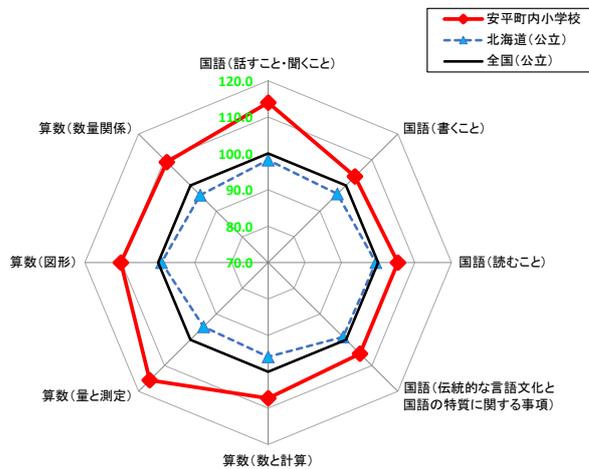
【洞爺湖町の学力向上策】

- ◎ 洞爺湖町スタンダード10研修委員会が策定した「洞爺湖町自立的学びのためのスタンダード10」による全町の学力向上の取組の実施
- ◎ 長期休業中や放課後の補充学習と町の放課後学習支援(地域未来塾)の実施
- ◎ 指定事業等を活用した教職員の資質向上・授業改善のための講師招聘講演会の開催
- ◎ 町独自の学力検査の実施
- ◎ 支援員の手厚い配置
- ◎ 平日、土日の家庭学習強化の取組の実施(PTAへの呼びかけ文書の作成など)

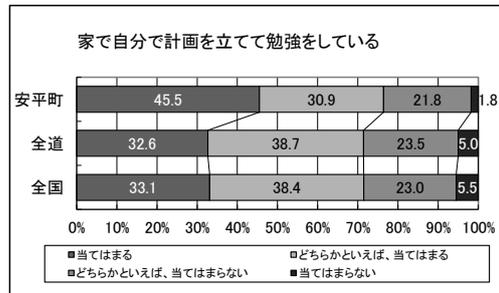
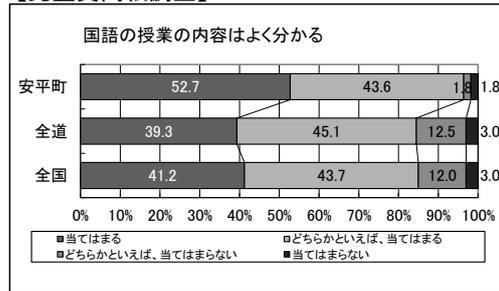
■安平町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:4校、児童数:55人)

【教科全体の状況】

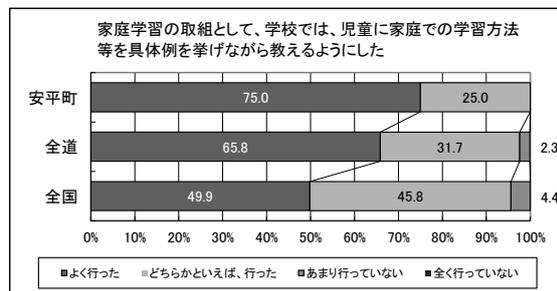
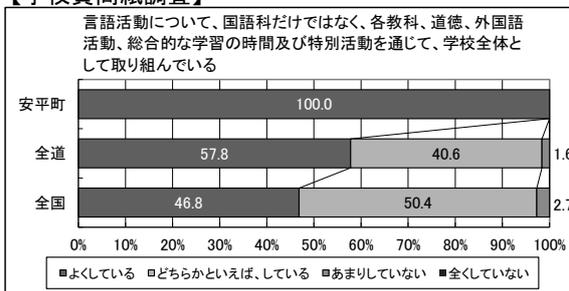
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|---|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科において、全国を上回っている。 ○ 国語において、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 算数において、全ての領域で全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、児童が、家で自分で計画を立てて勉強するようになり、学習の理解が深まり、学力の向上が図られたと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、児童は、国語の授業の内容がよく分かるようになり、国語で全国を上回ったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【安平町の学力向上策】

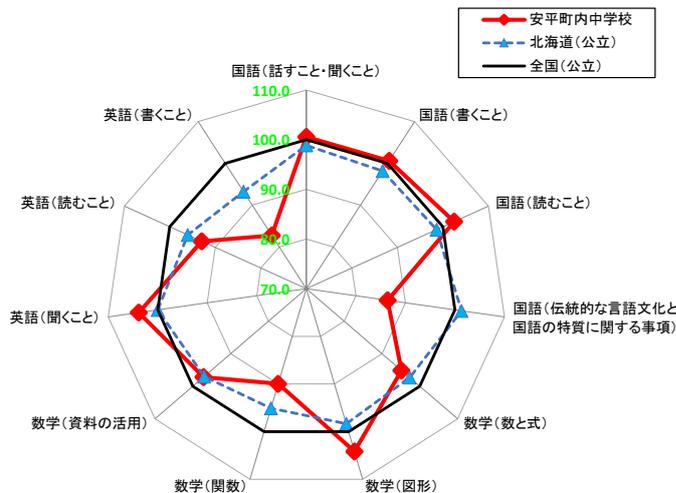
- ◎ 学校改善推進委員会における、全国学力・学習状況調査結果の早期の分析、課題の洗い出し、学力向上や指導方法の工夫改善につながるための作成
- ◎ 習熟度別指導、個に応じた指導、少人数、T・Tなど様々な形態での指導による基礎学力の向上
- ◎ 異校種間や同校種間相互の授業研究、連携や一貫教育、習熟度別指導方法の研究、指導方法の工夫改善に向けた体制の構築
- ◎ 義務教育9年間を見通した学習規律の確立、家庭学習習慣の定着

■安平町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:59人)

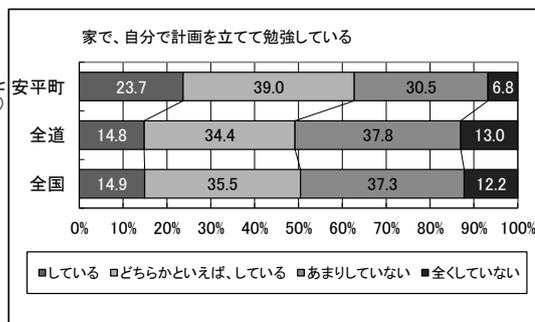
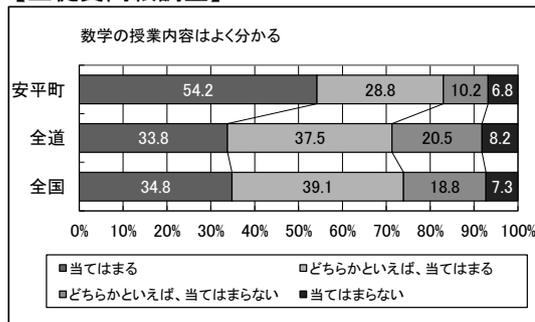
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

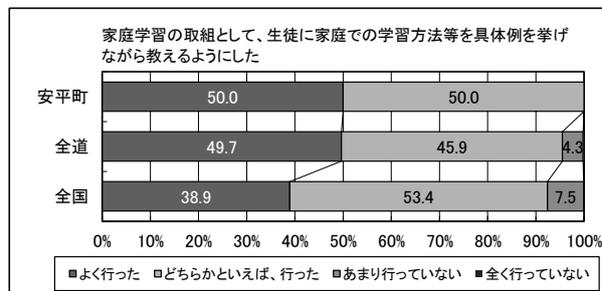
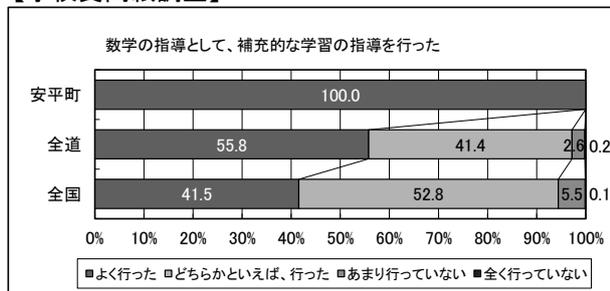
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国を上回っている。 ○ 数学では、「図形」で全国を上回っている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、数学の授業において、補充的な学習指導の工夫を行ったことにより、生徒が、数学の授業内容がよく分かるようになり、数学で全国を上回る領域が見られるようになったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の授業内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、家庭での学習方法を具体例を挙げながら指導したことにより、生徒が、自分で計画を立てて家庭学習に取り組むようになったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の指導として、補充的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

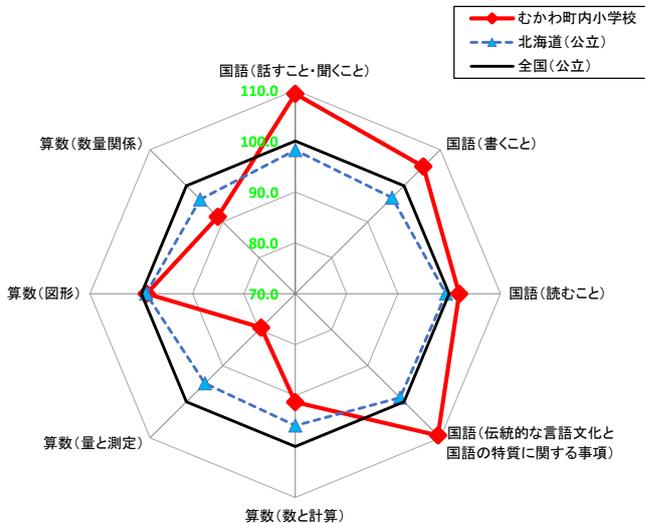
【安平町の学力向上策】

- ◎ 学校改善推進委員会における、全国学力・学習状況調査結果の早期の分析、課題の洗い出し、学力向上や指導方法の工夫改善につながるまとめの作成
- ◎ 習熟度別指導、個に応じた指導、少人数、T・Tなど様々な形態での指導による基礎学力の向上
- ◎ 異校種間や同校種間相互の授業研究、連携や一貫教育、習熟度別指導方法の研究、指導方法の工夫改善に向けた体制の構築
- ◎ 義務教育9年間を見通した学習規律の確立、家庭学習習慣の定着

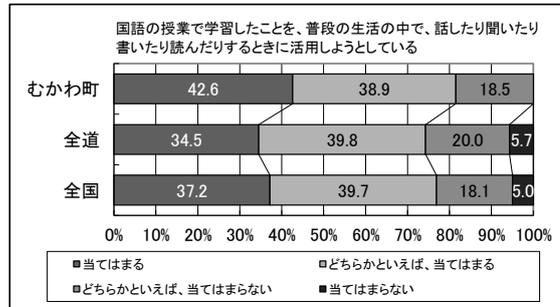
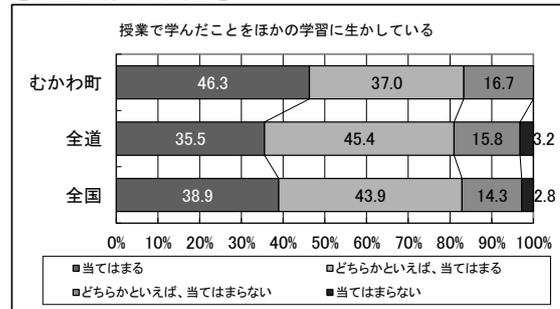
■むかわ町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:3校、児童数:54人)

【教科全体の状況】

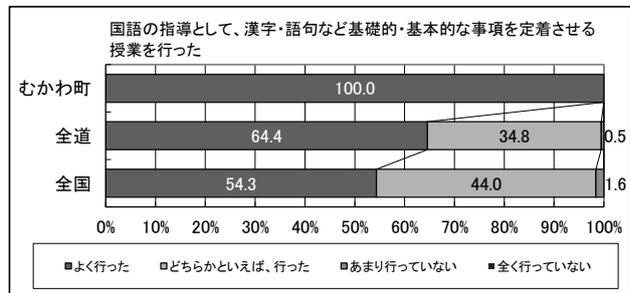
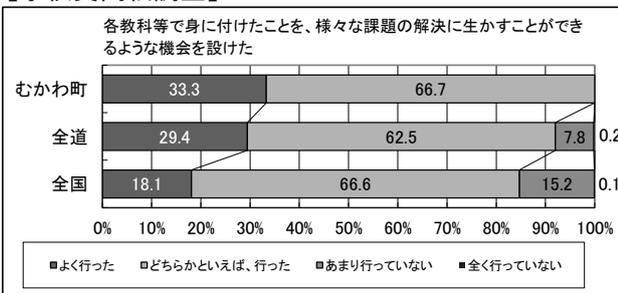
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|---|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 算数では、「図形」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、児童が、授業で学んだことをほかの学習に生かそうとするようになったと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業で学んだことをほかの学習に生かしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行ったことにより、児童が、国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとするようになり、国語の全ての領域で全国を上回ったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【むかわ町の学力向上策】

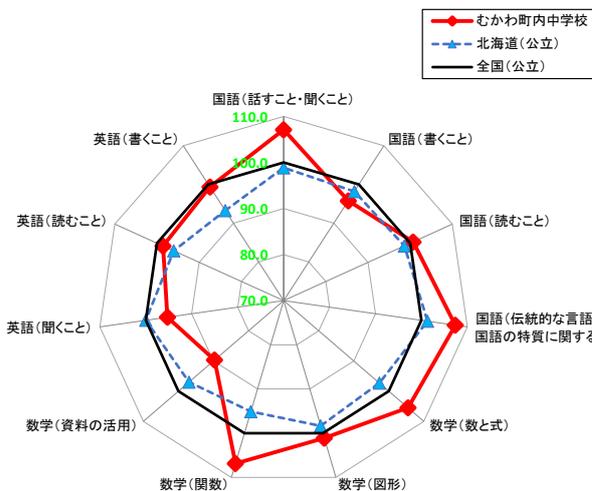
- ◎ 町学力向上対策協議会を中心に、標準学力検査(CRT)の分析による指導方法の充実・改善
- ◎ 「家庭学習のてびき」の配付及び「生活実態アンケート調査」の実施による家庭と連携した家庭学習習慣の定着と内容の充実
- ◎ 学校教育と社会教育が連携した学びの環境整備の充実
- ◎ 全国学力・学習状況調査の過去問題や、ほかかいどうチャレンジテストの積極的な活用
- ◎ 小・中学校の連携、9年間を見通した学習・生活規律の定着

■むかわ町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:55人)

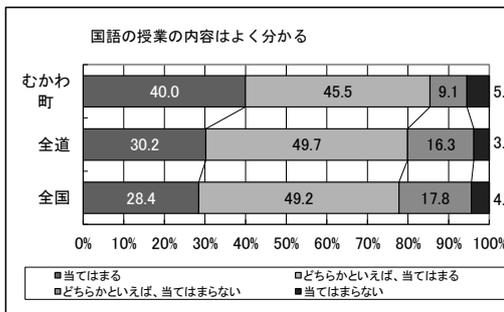
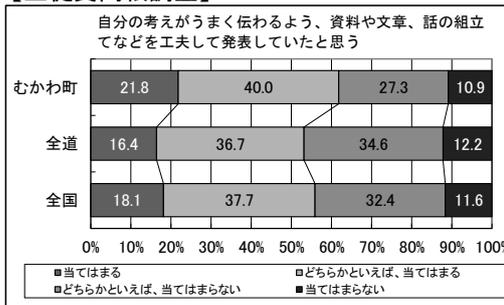
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

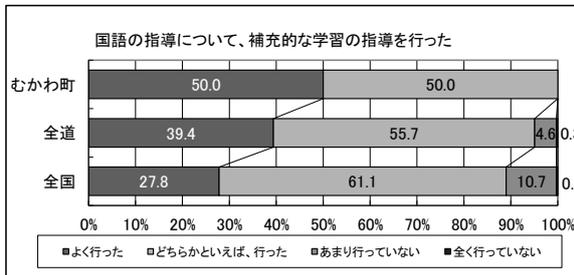
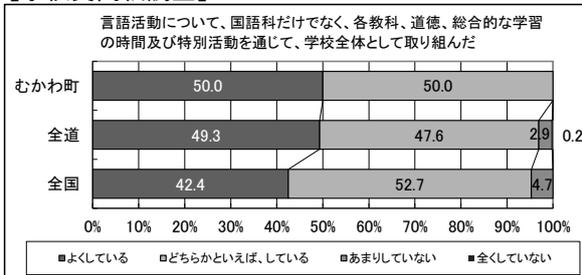
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|---|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全国を上回っている。 ○ 数学では、「数と式」「図形」「関数」で、全国を上回っている。 ○ 英語では、「書くこと」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、生徒が、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表するようになったと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「国語の授業の内容はよく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、国語の指導について、補的な学習の指導を行ったことにより、生徒が、国語の授業の内容が分かるようになり、国語の複数の領域で全国を上回ったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだ」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「国語の指導について、補的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【むかわ町の学力向上策】

- ◎ 町学力向上対策協議会を中心に、標準学力検査(CRT)の分析による指導方法の充実・改善
- ◎ 「家庭学習のてびき」の配付及び「生活実態アンケート調査」の実施による家庭と連携した家庭学習習慣の定着と内容の充実
- ◎ 学校教育と社会教育が連携した学びの環境整備の充実
- ◎ 全国学力・学習状況調査の過去問題や、ほっかいどうチャレンジテストの積極的な活用
- ◎ 小・中学校の連携、9年間を見通した学習・生活規律の定着